

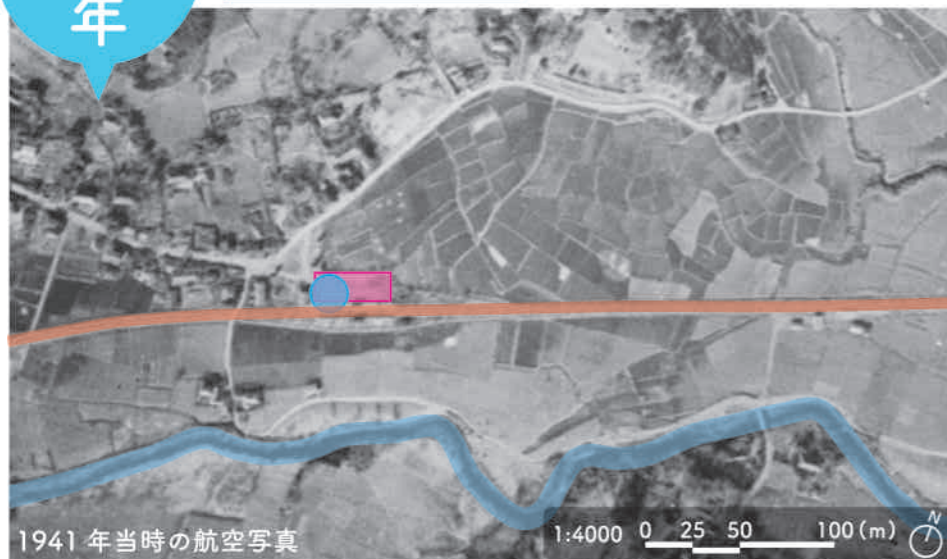
鶴川駅周辺の変遷

鶴川駅は1927年の開業から駅前ロータリーの変化と共に、発展してきました。そして今、駅周辺は大きな変化を迎えようとしています。

これからどうなる？

1927年

鶴川駅開業当初



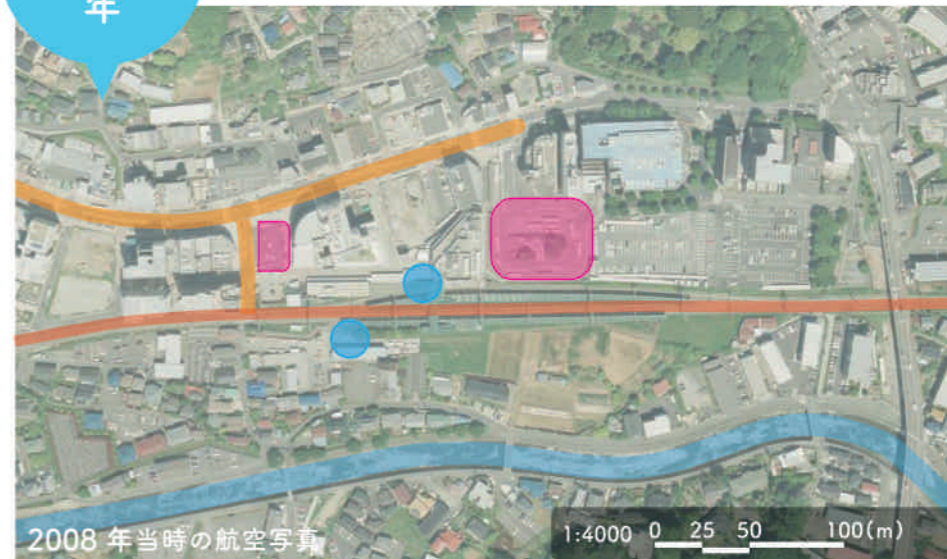
1979年

土地区画整理 事業前



2007年

芝溝街道・周辺地域整備



[町田市都市計画事業鶴川駅北土地区画整理事業 竣工記念誌] 引用

2025
年～

新しい鶴川駅周辺

駅により南北に分断されていたまちに橋上駅舎と自由通路を新設し、駅を中心とした面的な賑わいをつくります。

西ロータリー

小田急
マルシェ1

商業エリア

新 北ロータリー

新
鶴川駅（橋上駅舎化）

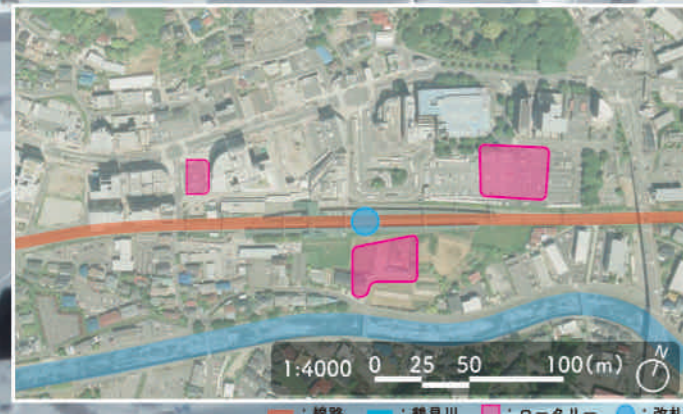
新 自由通路

商業エリア

商業エリア

新 南ロータリー

鶴見川



※あくまで現時点でのイメージであり
今後変更の可能性があります。

『わたしの家』鶴川駅

地域住民が繋ぎ、まちの活動がシンボルになる、地域に愛される駅にします。



※あくまで現時点でのイメージであり
今後変更の可能性があります。

01 人々が集う鶴川の憩いの居場所 『駅ナカ・リビング』



コンコース中央の吹抜け回りにテーブルを設け、休憩したり、勉強ができる居場所をつくります。列車に乗り降りする「まちの交通拠点」としてだけではなく、日常の集いの場、憩いの場となる「まちの交流拠点」を目指します。

02 まちの南北を繋ぐ情報発信拠点 『エンガワ・自由通路』



駅舎と一体的な空間を形成し、統一的なデザインとします。イベントを行う場として、まちの情報を発信する拠点として、「通過空間」だけではなく、賑わいのある魅力的な「滞留空間」を目指します。

03 まちの活動が駅のファサードになる 『吹抜け中間駅』



吹抜けを設け、ホームとコンコースを繋ぐことにより、まちの活動風景が吹抜けを通して見えます。人の活動そのものが鶴川駅の顔となり、単なる通過駅ではなく、利用者が下りてみたいと思う駅舎を目指します。

04 眺望を活かした町田市東の玄関口 『鶴見川バルコニー』



外壁を透過性の高い素材とすることで、駅の中から鶴見川や丘陵地の自然を感じられる駅舎にします。また、南北の視線が抜けることで圧迫感を低減し、橋上駅舎が周辺の景観を分断しないように配慮します。

鶴川駅周辺における将来のまちの計画

駅の変遷が作りだした東西の賑わいと新たにできる自由通路の南北の動線により、面的な賑わいが生まれます。そして、鶴川駅周辺の3つのエリアにより、まち全体の活性化を図ります。

商店街エリア（西口） P17,18

駅とポプリホールを繋ぐ商店街には滞留空間が存在し、鶴川駅西側の顔と、西口の賑わいを創出します。イベント時にはそのスペースを使い様々な賑わいのニーズに対応します。

香山（かごやま）エリア（北口） P13,14

駅舎・商業施設が相互に良い関係を築き、鶴川駅周辺の拠点としての賑わいを形成します。また、香山から連続したみどりが感じられる、賑わいとみどりのある心地の良い空間をつくります。

鶴見川エリア（南口） P15,16

駅前には商業エリアや公園と一体的に計画し、店舗の賑わいや公園のみどりがにじみ出る空間を作ります。また、丘陵地や鶴見川への眺望に配慮した、豊かな自然が感じられるうらおいと賑わいが共存する空間をつくります。

